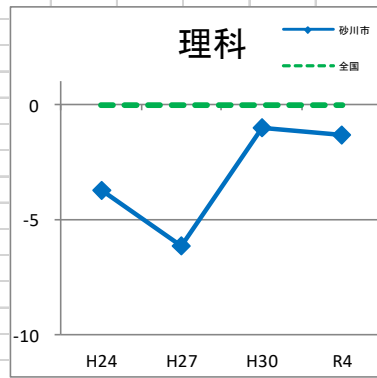
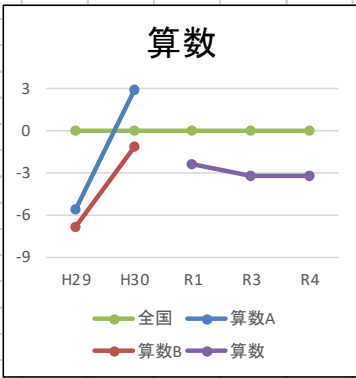
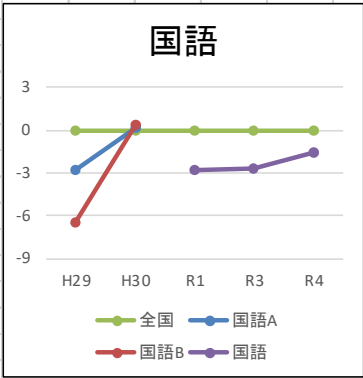
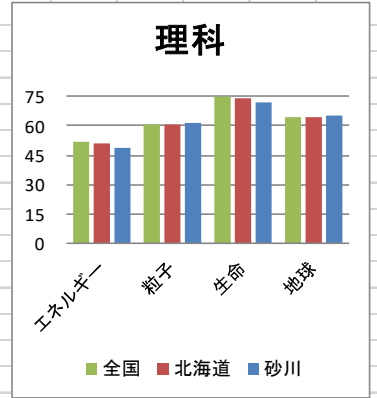
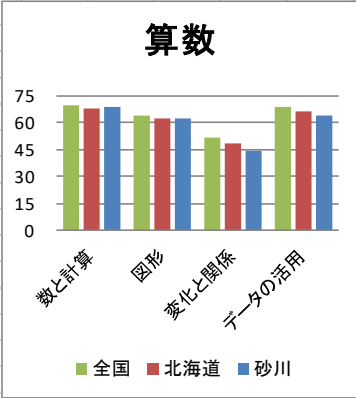
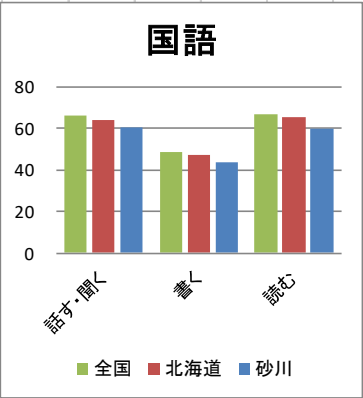


# 小学校（学校数：5校 児童数：96名）

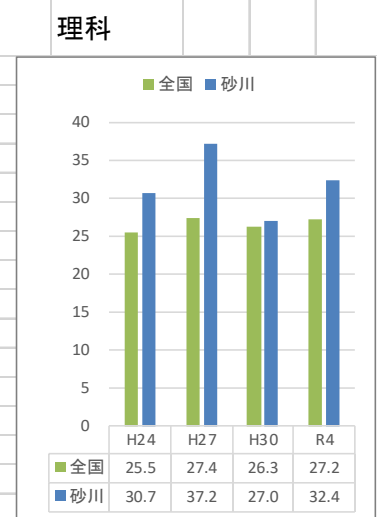
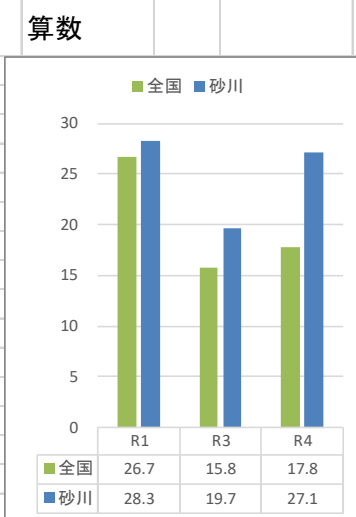
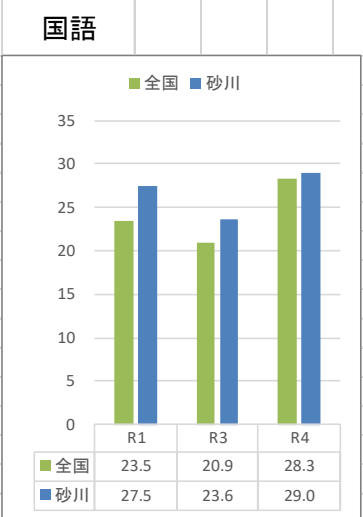
## 1 平均正答率(全体)の経年推移



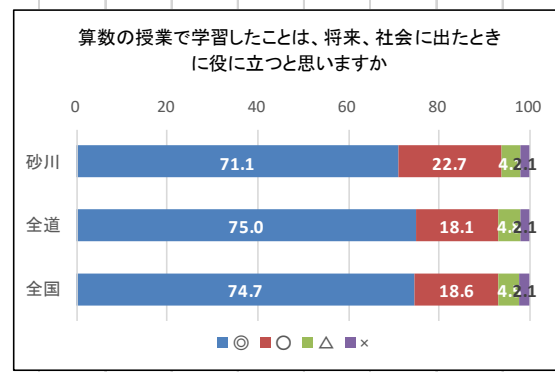
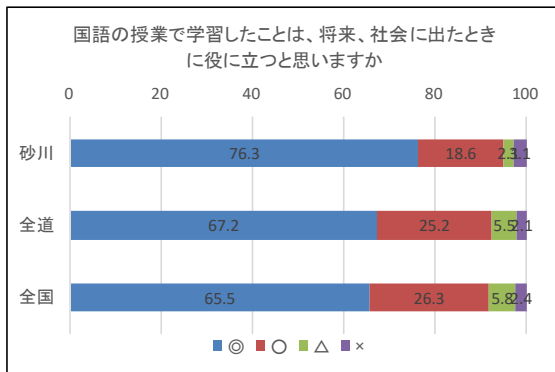
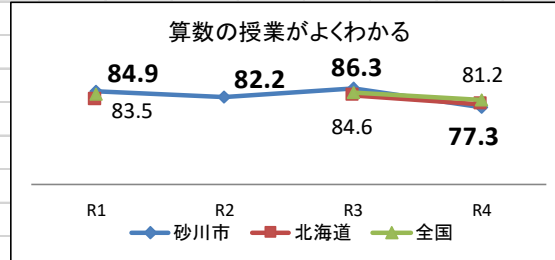
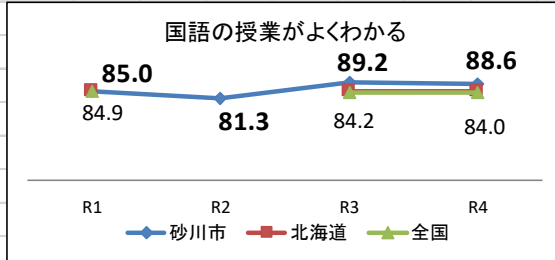
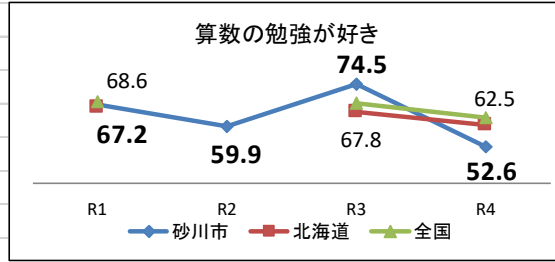
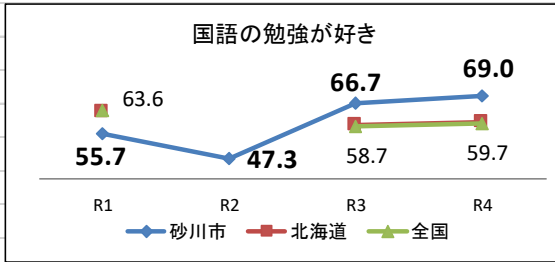
## 2 領域別平均正答率の状況



## 3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合(努力を要する児童の割合)



#### 4 授業に関する意識(質問紙調査より)



#### 5 分析

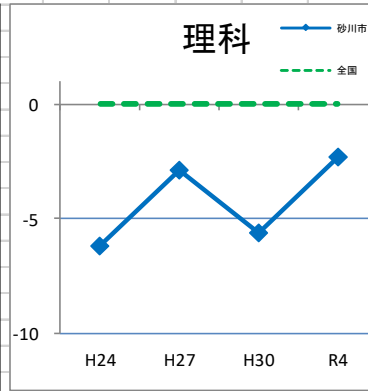
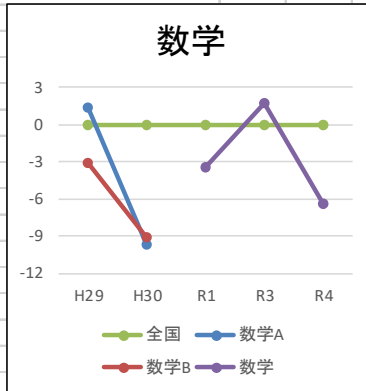
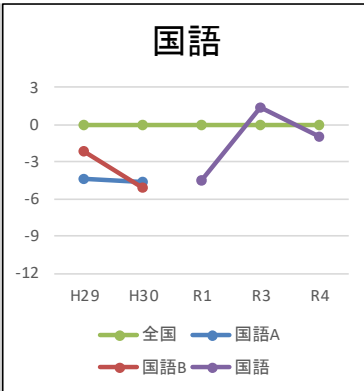
- 国語、算数、理科ともに、全国平均をやや下回っている。
- 領域別の傾向としては、国語の「話す・聞く」「書く」「読む」、算数の「変化と関係」「データの活用」が全国平均を下回っているが、理科については、どの領域も全国平均と同程度の結果となっている。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合は、国語、算数、理科ともに全国を上回っているが、特に算数の割合が顕著となっている。
- 国語の勉強が「好き」「よくわかる」という割合は全国平均を上回っているが、算数については下回っている。
- 国語の授業で、「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、全国平均を上回っている。
- 算数の授業で、「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、全国平均と同程度となっている。

#### 6 授業改善の視点

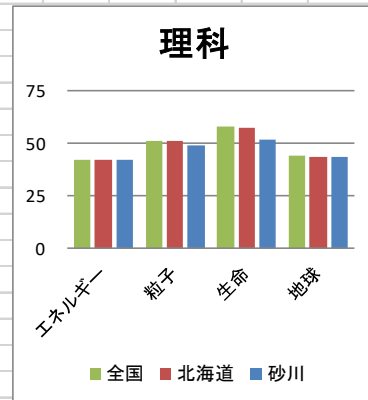
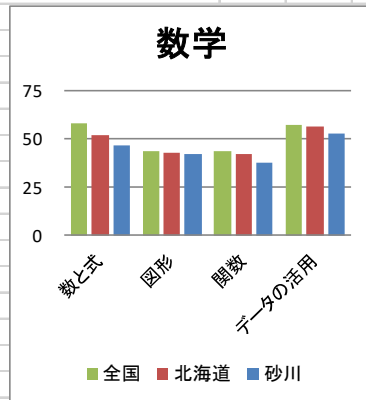
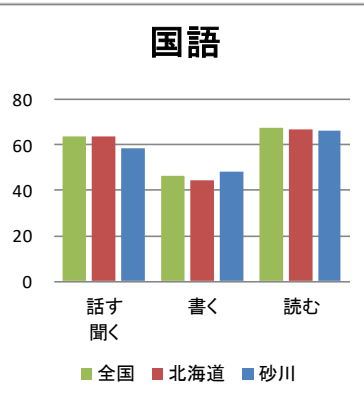
- 子どもが思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的に取り入れた指導課程の工夫。(教師の説明する時間を短くしたり、子どもの思考を深める発問の工夫など)
- 課題に正対するまとめを行い、定着を図る学習活動や問題を確実に位置付けた指導課程の工夫。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習活動を明確にした授業展開の工夫。

# 中学校（学校数：2校 生徒数：107名）

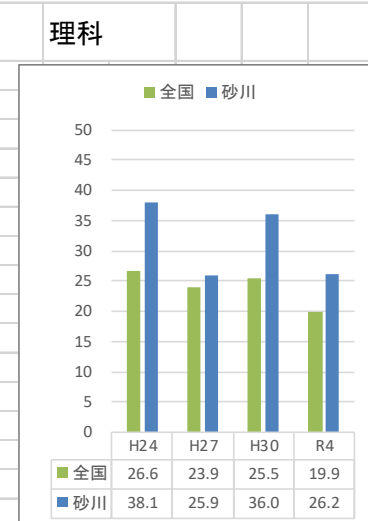
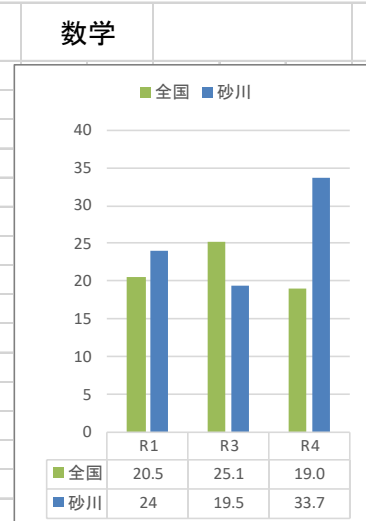
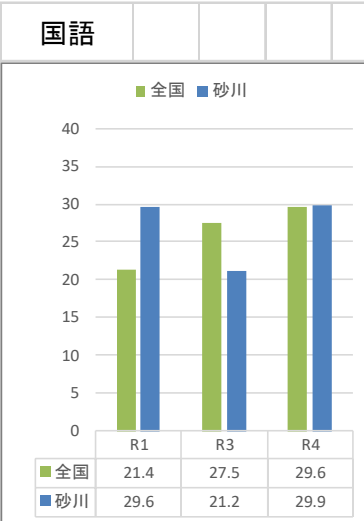
## 1 平均正答率(全体)の経年推移



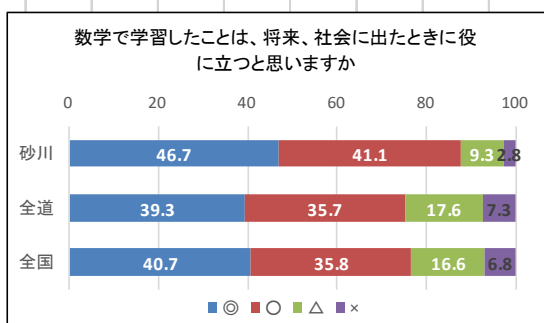
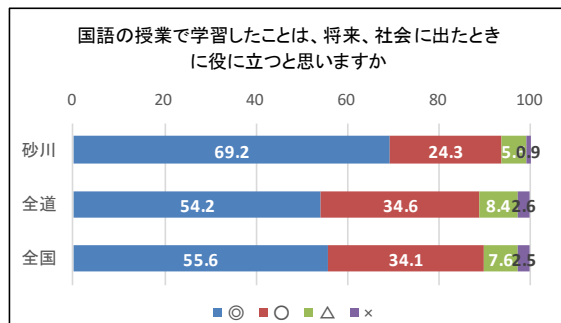
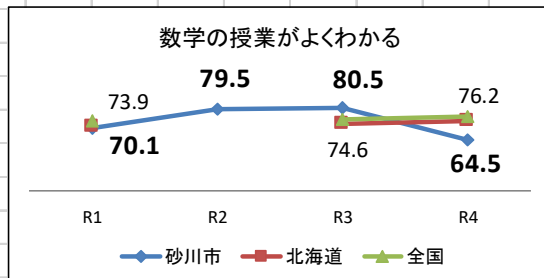
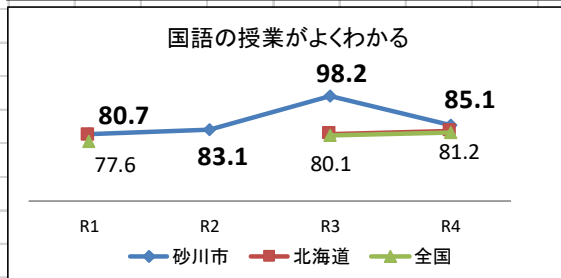
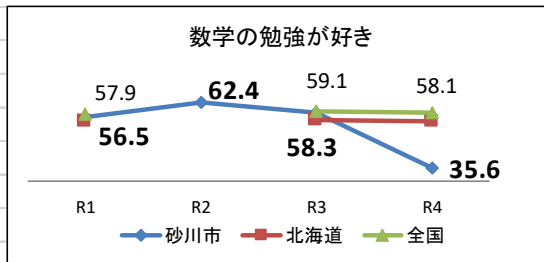
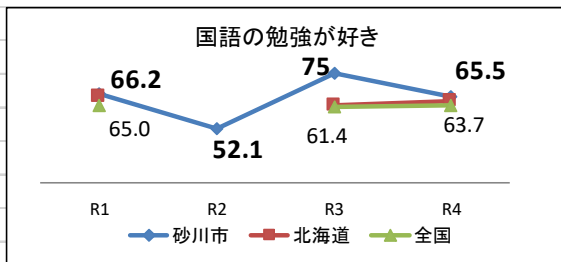
## 2 領域別平均正答率の状況



## 3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合(努力を要する生徒の割合)



#### 4 授業に関する意識(質問紙調査より)



#### 5 分析

- 国語、理科は全国平均をやや下回っており、数学は全国平均を下回っている。
- 領域別の傾向としては、国語の「書く」が全国平均を上回っており、数学の「数と式」が全国平均との差が顕著となっている。理科については「エネルギー」「地球」が全国平均と同程度となっている。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合は、国語は全国平均と同程度となっているが、数学については全国平均との差が顕著となっている。
- 国語の勉強が「好き」「よくわかる」という割合は全国平均を上回っているが、数学については下回っている。
- 国語の授業で、「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、全国平均を上回っている。
- 数学の授業で、「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、全国平均を上回っている。

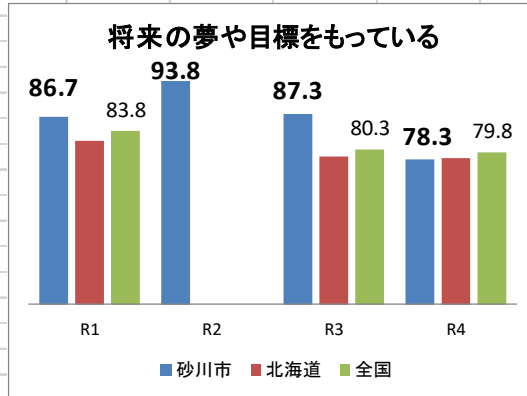
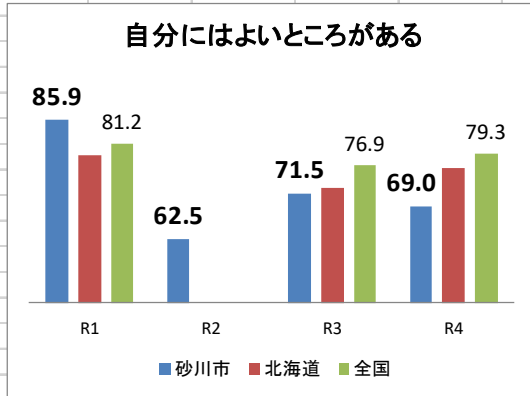
#### 6 授業改善の視点

- 子どもが思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的に取り入れた指導課程の工夫。(教師の説明する時間を短くしたり、子どもの思考を深める発問の工夫など)
- 課題に正対するまとめを行い、定着を図る学習活動や問題を確実に位置付けた指導課程の工夫。
- 学習過程や思考の流れを示す板書を工夫するなど、1時間の授業を振り返ることのできる板書計画の改善。

# 小学校質問紙調査（学校数：5校 児童数：96名）

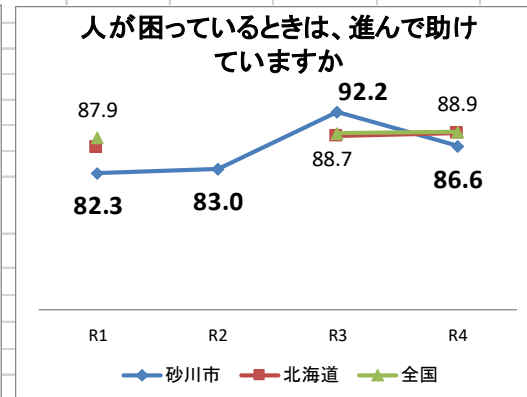
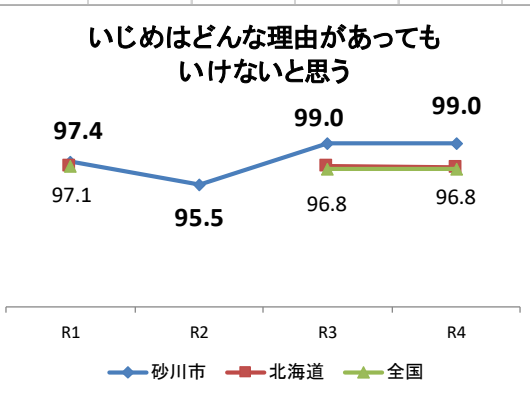
※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

## 1 自尊感情に関する児童の状況



「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、昨年度より若干下回っている。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり自信をもたせたりするような教育活動を充実させていくことが大切であるとする。  
 「将来の夢や希望をもっている」と回答している児童の割合は、昨年度より大幅に減少しており、全国平均も下回っている。キャリアパスポートを効果的に活用するなどして、小学校の早い段階からのキャリア教育のより一層の充実を図っていく必要がある。

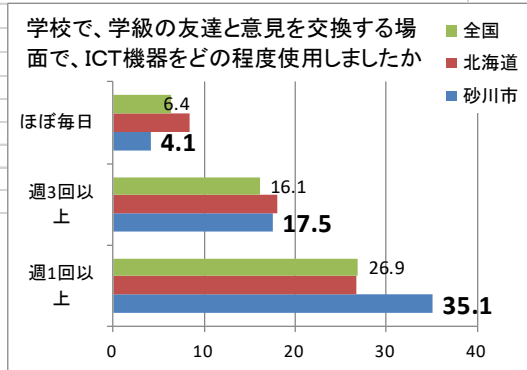
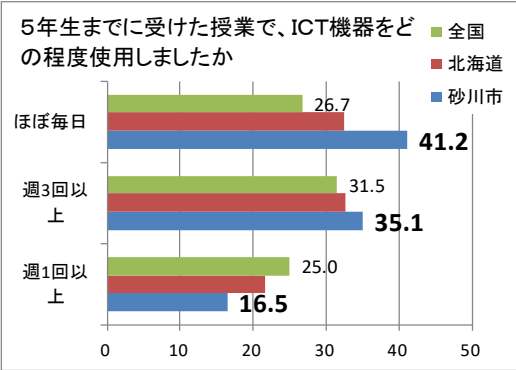
## 2 規範意識に関する児童の状況



いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての児童がいじめはどんな理由があっても許されない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるよう、様々な場面を通して引き続き指導していくことが大切であるとする。

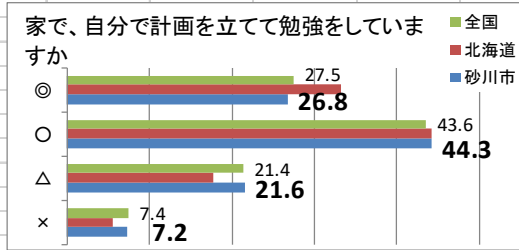
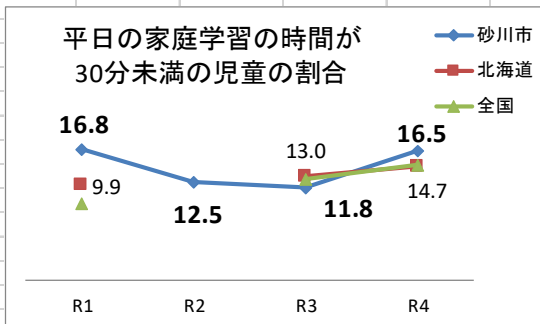
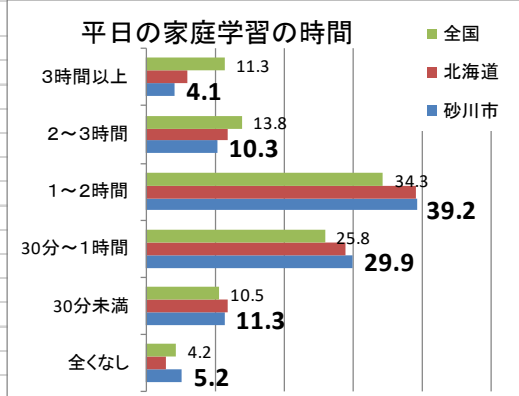
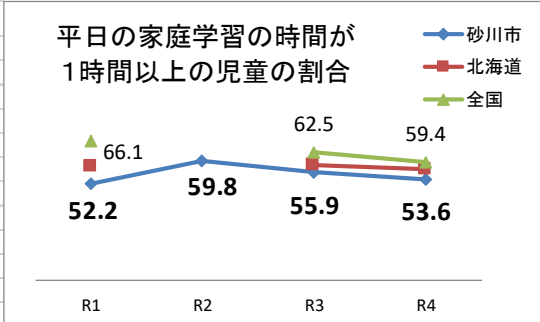
### 3 学習に関する児童の状況

#### (1) ICT機器を活用した学習状況



ICT機器を活用している割合は、全国平均を上回っており、ほぼ毎日使用している割合は、全国平均を大きく上回っている。また、ICT機器を活用して友達と意見を交換する場面も全国平均を上回っており、授業の中で対話的な活動をより一層充実させるツールとしても有効活用されている。

#### (2) 家庭での学習状況

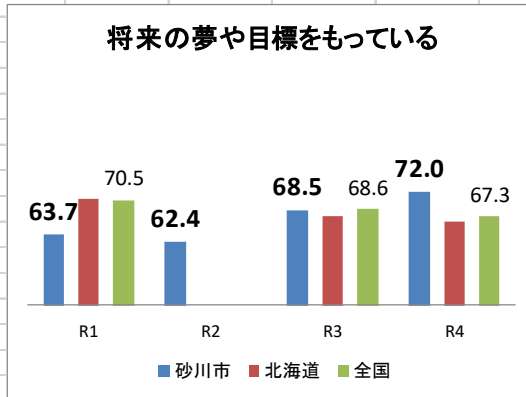
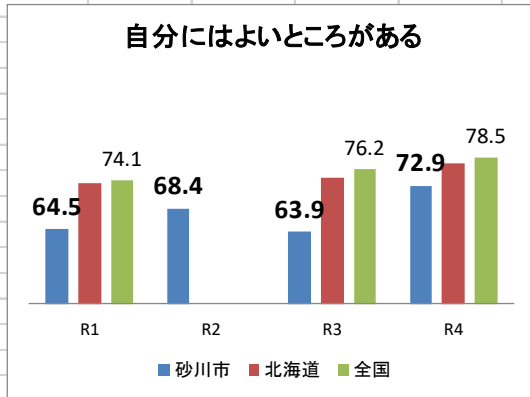


学習時間の質問からは、5割以上の児童が平日、1時間以上は学習しているが、全く学習をしない児童の割合は全国平均を上回っている。また、平日の家庭学習の時間も1時間～2時間が最も多く、家庭学習の習慣がある程度定着していることが伺える。  
 家庭学習の計画性については、自分で計画を立てて学習している児童の割合は全国平均と同程度となっており、家庭における基本的な生活習慣の中で、家庭学習に計画的に取り組む習慣が定着していることが伺える。  
 今後、家庭学習を全くしない、家庭学習の時間が30分以下の児童に対して、家庭学習の取組方や内容、計画のたて方などについて、具体的に指導をしていくことが大切であると考えます。

# 中学校質問紙調査（学校数：2校 生徒数：107名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

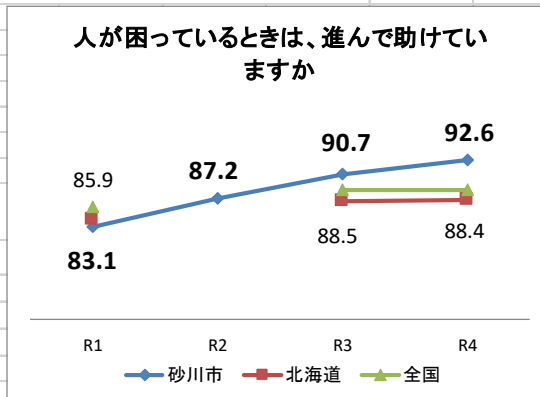
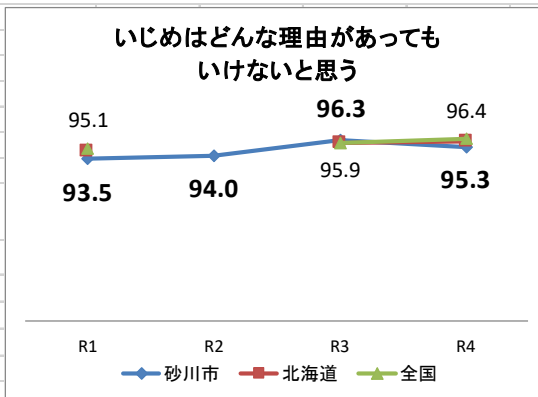
## 1 自尊感情に関する生徒の状況



「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は昨年度より上回ってはいるが、全国平均を下回っている。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり自信をもたせたりするような教育活動を充実させていくことが大切であると考えます。

「将来の夢や希望をもっている」と回答している生徒の割合は、昨年度より増加し、全国平均も上回っている。今後もキャリアパスポートを活用するなどして、中学校卒業後の進路を意識させた早い段階からのキャリア教育のより一層の充実を図っていくことが大切である。

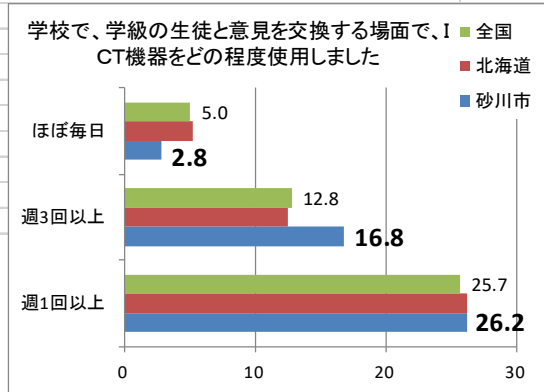
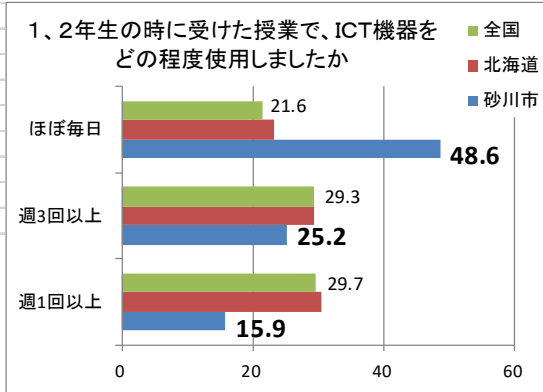
## 2 規範意識に関する生徒の状況



いじめに対する考え方はここ数年、改善傾向がみられていたが、今年度は全国平均を若干、下回った。また、困っている人を助けることの大切さを意識している生徒の割合が全国平均を上回っている。引き続き、いじめはどんな理由があっても許されない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるよう、様々な場面を通して引き続き指導していくことが大切であると考えます。

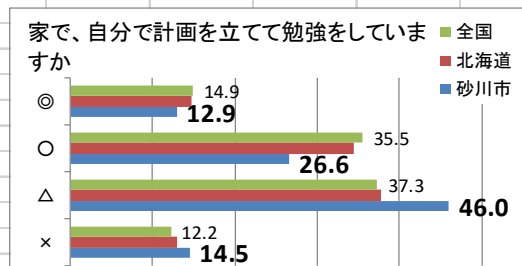
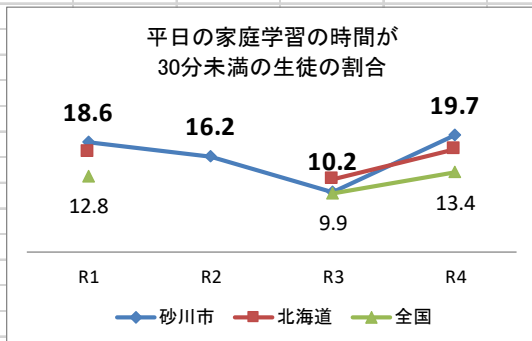
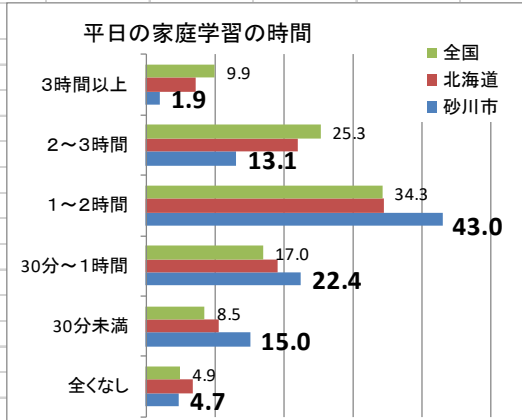
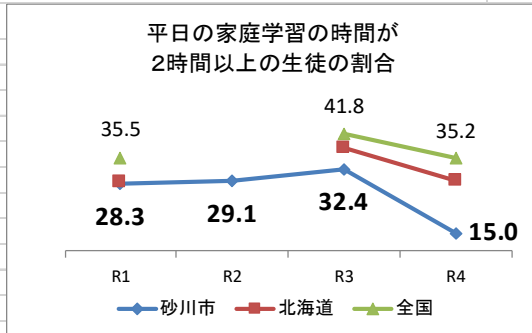
### 3 学習に関する生徒の状況

#### (1) ICT機器を活用した学習状況



ICT機器を活用している割合は、全国平均を大きく上回っており、ほぼ毎日使用している割合は、全国平均の約2倍となっている。また、ICT機器を活用して生徒と意見を交換する場面も全国平均を上回っており、授業の中で対話的な活動をより一層充実させるツールとしても有効活用されている。

#### (2) 家庭での学習状況



学習時間の質問からは、平日に2時間以上は学習している割合は、全国平均を大きく下回っている。また、家庭学習の時間が30分未満の割合も全国平均を上回っている。全体の傾向として、家庭学習に取り組む時間が不足していることから、卒業後の進路を意識させながら、家庭における生活習慣を見直すなどして、家庭学習に取り組む時間を確実に確保することが大切である。

家庭学習の計画性については、自分で計画を立てて学習している生徒の割合は全国平均を下回っていることから、家庭学習の習慣が定着していないことが伺える。今後、家庭学習を全くしない、家庭学習の時間が1時間以下の生徒に対して、家庭学習の取組方や内容、計画のたて方などについて、具体的に指導をしていくことが必要である。